

みなさんからの素敵な  
情報を待ってます！

### 温かな心のふれあい

#### 「えんじゅ」に太鼓演奏慰問



8月15日、深谷小学校子ども育成会を中心とした「白山白鳥笠松太鼓」の皆さんが、特別養護老人ホーム「えんじゅ」に入所しているお年寄りたちに太鼓の演奏を披露しました。

小中学生と父母の18人が、「笠松打ち合わせ太鼓」など3曲を熱演し、お年寄りたちはこどもたちの力強い演奏に目を細めながら聞き入っていました。

また、演奏の後は、お年寄りたちの肩をもんであげるなど、心の通った触れ合いをしていました。

### 博物館展示クラスの刀がズラリ!

#### 白石城日本刀鑑賞会



手に取って鑑賞できる機会の少ない博物館展示クラスの日本刀を集めて、8月25日、白石城三階櫓と大手門を会場に鑑賞会が開かれました。

集められた日本刀は、重要美術品の備前長船景光(鎌倉末期作)など6点。日本人と刀のつながりや鑑賞のポイントなどの講義の後、市内外の刀剣愛好家など40名が、実際に刀を手にとって形や刃紋などをじっくりと鑑賞していました。

この鑑賞会は10月20日にも開かれます。(有料)興味をお持ちの方はお気軽にご参加ください。☎白石城☎24-3030

かつて、弥生式文化の時代、稲作はまず、川の上流の中山間地に発達していった。我が国の川が、滝といつても

言い過ぎではないくらいの急流であり、殊に下流域は、当時の少ない人力では水をコントロールできず、荒蕪地であった。といって、水位より上の

平地に水を引く技術もまだ生まれていなかった。それ故に川の上流に小面積の田んぼが次から次へとできたのである。その代表が棚田であろう。

しかし、文明は河川を整備し、かつての荒蕪地を農地に変えた。時代とともに、効率を目指す農業は集約農業となり、更なる生産性を求めて、農地を工業地、商業地、住宅地に変え、都市を発展させた。



### 川井市長の せせらぎトーク

#### ■中山間地について考える■

都市への人口の集中に反し、少子高齢化の流れの中、中山間地の過疎はさらに進み、耕作放棄地が続出する。

これに輪をかけたのが猿害である。猿という獣は知能が高く、学習能力があるから始末が悪い。

嘘のような本当の話と言うが、七ヶ宿では畑を電線で囲い、絶対に侵入できないようにした。ところが猿は電線に触れることなく、トンネルを掘って入ってきた。狭いトンネルでは、中のトウモロコシなどのえさを持つて出るの難しいだろうと思ったが、どっこい猿もサルもの、そばにある木の上に子猿がいて、親がもぎ取ったえさをヒヨイと投げ

ると、小猿がキャッチして仲間に渡す。このような猿害に対応するため、大きな音をたてたり、あるいは痛い目にあわせてその地区を追放しても、他の町や村の方に移動して、被害は拡大するばかりである。

ヨーロッパ各国の農業政策に「デカップリング」がある。デカップリングとは、いわゆる市場原理から独立した直接所得保障政策であるが、白石市でも行っている国の中山間地直接支払制度とは、意義が違うと思われる。「デカップリング」の原点は、ヨーロッパでは山とか田舎というのは即ち国境地帯で、そこに人が住んでもらわないと国防上の不安が生ずるところから来ている。そこで、補償をして田舎に住んでもらう、結果として田園地帯、あるいは山間地域を、荒廃から救っているということである。

補助金がなければ市場競争の中では敗れ去ってしまう。であるから、このデカップリングというのは簡単に言えば、農業をする上で環境負荷が低いほど、あるいは農村景観を守るほど高い補助金が出るという制度である。

これを行うために我々日本人には、発想の転換が必要である。一つは、農業を生産性の面からだけ見るのではなく、環境を守り、景観を守るために都市部の人達がその経費の一端は当然持たなければならぬということである。

もう一つは、自然保護論との折り合いである。ヒステリックな保護論者は、被害に泣く農業者のことを考えているだろうか。この二つが解決しなければ、中山間地の荒廃を救うことには決してならないだろう。実は、私は小原の寒葛の生産や柿の里構想、蔵王高原そばや内親地区のコスモスは、市独自のデカップリングだと考えている。